狭山ヶ丘学園 学園通信

狭山ヶ丘通信

No.205

2023（令和5）年
12月23日（土）
狭山ヶ丘学園

狭山ヶ丘学園WEBサイト https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/

本校の実情をお知らせし、教育問題、社会問題等に関する本校校長小川義男の見解などをお読みいただくため「狭山ヶ丘通信」を発行いたしております。

脅かされる世界の平和

校長　小川　義男

「長く」と言っても良いほど続いた世界平和だが、今、それが、脅かされている。
世界の平和も、第二次世界大戦終戦から七十八年に及ぶのだが、この尊い平和が、極めて難しい段階にあると言わなくてはならない。

勿論、この間ずっと、世界が平和だったわけではない。
東ヨーロッパの国々（東ドイツ、ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー等）は、ロシアの民衆と同じく、史上例を見ない、スターリンの圧政に苦しめられてきた。全国が「収容所列島」と言われるくらい、圧政、投獄、殺害の地獄であった。

ドイツは、現在の首都ベルリンを、突然『社会主義』の東ドイツと『自由主義』の西ドイツに分断された。
ソ連主体の東ドイツは、西ドイツに比べ、極端なくらい貧しかった。西ドイツは「自由ドイツ」と呼ばれ、生活水準も高く、思想の自由も保障されていた。
ソビエトロシアは、面白くないことがあると、東ドイツから西ドイツに向かう道路、鉄道を封鎖することができた。これが、しばしば世界平和を脅かした「ベルリン封鎖」である。生活水準が、ソ連に組み込まれていた東ヨーロッパの国々は、しばしば暴動、内戦、反乱の形で抵抗した。

私はその頃、ソビエトに滞在し、原水爆禁止、世界平和を目指して活動していた。フルシチョフ氏とは面識もあるし、ご馳走にもなった。素敵な人物であった。それを引き継いで、ロシアの自由化、圧政の克服に努力したのがゴルバチョフ氏である。
彼は、ロシアの歴史の上に、特筆すべき偉大なる指導者だったと思う。私の訪ソ時、彼はモスクワ大学の法学部の学生だったので、面識はない。しかし、彼こそ「ソビエト社会主義共和国連邦」から、民衆を解放した最大の英雄と私は思っている。

ロシア滞在中、プーチン氏は生まれていなかった。先日ゴルバチョフ氏が逝去したとき、プーチン氏は葬儀には出なかった。プーチン氏にも、スターリンへの批判はあると思うが、古き「ロシア帝国」を求めてか、ウクライナを侵略、支配し、歴史に名を残す憧れを密かに抱いている気配である。
フルシチョフ氏、ゴルバチョフ氏、更に偉大なるトルストイを生んだロシアのために惜しまれることである。
ロシアは、我が日本の千島列島をも不法に侵している。故安倍氏は、プーチン氏と特段に親密な関係にあったと思うが、国土の侵略を放置すれば、やがて北海道本島も危険になることを、彼はどのように考えていたのであろうか。
海を挟んだ隣国、中華人民共和国は、今や社会主義国家ではない。その本質は「新帝国主義国家」である。新しい国際環境の中で、我が国にも巨大な外圧が掛かりつつある。

イスラエルとハマスとの紛争は、私にはわかりにくい。
ヨーロッパを汽車で旅していたとき、知的なユダヤ人と同席したことがある。「キリスト教とユダヤ教」はどう違うのかについて深く話し合った。
彼の話によると、ユダヤ教は、イエス・キリストを「救い主」として認めていないのである。従って新約聖書は原則として読まず、旧約聖書のみに基づいて物事を考える。
イエス・キリストは、立派な人ではあるが「救い主」とは考えず、「救い主」は「これから現れる」と彼は主張する。
「神」が関わってくると、私には話が「がくんと」難しくなる。
イスラム教の人々も、信仰に熱心だから、問題は極めて難しくなる。それが、現実の国際関係として、紛争、戦争につながってくるのだから、その平和的解決は極めて難しい。

繰り返すが、中国は今や社会主義国ではなく、資本主義国家、大胆に言えば「帝国的支配への内的衝動」を帯びてきている有力国家なのではないかと私は思う。
ウクライナ紛争は、旧ソ連内の独立国家に対する、帝国主義的支配を目指すプーチン氏のイデオロギーであり「新しいスターリニズム」と言えなくもない。
故安倍氏は、プーチン氏と友好関係が良好だったので、その親密さが北方領土、千島列島全体の復帰につながると考えていたのかもしれない。旧自民党、現野党のとある国会議員は、ウクライナ紛争のさなかにロシアを訪れ、プーチン氏に媚びを売った。或いは千島列島周辺での漁業利益に資するためだったかも知れぬが、「国を売るもの」と私は考える。
私は北海道出身だが、在道当時から地域ロシアの人々は、夕方には北海道新聞の朝刊を読んでいると言われたものである。この議員の所属政党が、これにどう対処したか知りたい。

沖縄は戦後「アメリカ施政下」であり、訪れるには旅券が必要であった。それを、現地の人々の努力と相まって佐藤元総理の尽力、アメリカの分別の中で、沖縄は本土に復帰した。世界的にも珍しいケースだと思う。
ロシアも、この顰に倣ってくれると、日ロ両国のためにどれほど素晴らしいことであろうか。

発行 / 学校法人狭山ヶ丘学園　編集 / 広報部
〒358-0011　埼玉県入間市下藤沢 981　TEL:04-2962-3844　FAX:04-2962-0656
●本校 WEB サイトにてバックナンバーもご覧いただけます。
https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/
WEB サイトでは、授業・部活動など学校活動をリアルタイムでお知らせしております。ぜひご覧ください。

web版は個人情報保護の観点から一部情報を掲載しておりません。

女子バレーボール部
春の高校バレー
埼玉県予選ベスト4!

部長・3年[redacted]組[redacted]

私たちはこの1年間、県大会で優勝し全国大会に出場することを目標に練習に励んできました。今まで県大会で優勝したことがない分、それをプラスに捉え「チャレンジャー」として思い切って今大会に臨むことができましたが、準決勝で負けてしまい結果は3位で悔しさが残る形となってしまいました。

今大会を振り返ると、私たちの相手は勢いのあるチームや手強いチームだったため、試合に対する自信と同時に、少し緊張感もありました。しかし、試合が進んでいくにつれて緊張感はなくなり、自信を持って試合に挑むことができました。その結果、自分たちらしく粘りあるプレーで準決勝に駒を進めることができました。準決勝では、「全員バレー」で必死にボールを繋ぎ、コンビバレーで攻撃を仕掛けるなど、自分たちの課題として乗り越えるべきことを練習してきた成果を発揮できた場面が多くありました。それでも勝てず、決勝の舞台にすら立つことができなかったのはとても悔しかったです。

この3年間では、バレーボールの技術だけでなく人として成長することができたと思います。大好きなバレーボールに多くの時間を費やせたことが、どれだけ幸せで恵まれているかを改めて実感しました。たくさん応援してくださった保護者の方々、OGの皆さん、先生方への感謝の気持ちを忘れず、この3年間で学んだことをこの先の人生に活かしていきたいです。最後になりますが、たくさんの応援ありがとうございました。今後の応援もよろしくお願いします。

男子サッカー部
全国高校サッカー選手権埼玉県予選ベスト8!

キャプテン・3年[redacted]組[redacted]

キャプテンとしてインターハイ、選手権ともに県ベスト8という結果をを残すことができました。今年の成果を通して、たくさんの人に支えられていることを改めて実感しました。

試合に出れないメンバーや保護者の方々、指導者の方々の応援や、ご指導、ご協力があったからこそ、勝ち得た成果です。試合で下を向きそうな時、スタンドから精一杯声を出してくれる仲間、うまくいかない時励ましてくれた保護者の方々、サッカーのことをたくさん教えてくれた指導者の方々が支えてくださる、非常に恵まれている環境でした。

選手権の中で心に残っていることは埼玉栄高校戦です。インフルエンザで試合に出れないメンバーが多い状況の中、厳しいゲームを制してベスト8を決めることができました。それまでの練習や当日の試合を通して、チームとして大きく成長できたと思っています。

私は大学でもサッカーを続けるので、サッカー部で学んだことを活かして頑張っていきたいです。

今後もサッカー部の応援をよろしくお願いします。

web版は個人情報保護の観点から一部情報を掲載しておりません。

合格体験記

明治大学農学部食料環境政策学科（地域農業振興特別入試）合格

[redacted]さんは、サッカー部（強化部）に3年間所属し厳しい練習に毎日のように臨みながらも、日々の学習も着実に進めバランスの取れた高校生活を過ごしていました。そうした文武両道で身につけた知性、表現力、主体性を活用し、小論文やプレゼンテーションが課せられた厳しい試験を突破し、見事合格されました。

3年[redacted]組[redacted]

私の住む地域は少子高齢化による過疎化が進んでいます。こうした現状に中学生の頃に危機感を覚えた私は、中学校の3年間「青梅市中学生の主張大会」において、地域振興についての発表をしてきました。その発表を聞いて下さった中学校の先生に明治大学農学部食料環境政策学科の「地域農業振興特別入試」を教えていただき、自身がテーマにしてきたものを大学で専門的に深めるためにも、本校に入学して文武両道のもと、合格を目指そうと考えました。

私は本校入学後から今回の試験での合格を目指し、高校3年間はしっかりと勉学に励み、部活動との両立を定着させました。また地域振興に関わるボランティア活動を続けてきました。

3年生になり、進路を明治大学の総合型選抜に決めました。私の場合、試験課題が「地域農業振興」に関することでしたので、とにかく地域の現状を知るため、市役所や農林業関係、地域の行事など様々なところに足を運び、地域と関わることに努めました。また、出願書類、プレゼンテーション、面接の対策は約4ヶ月もの時間をかけ準備をしてきました。専門的な知識も必要だったため、夏休みや放課後、毎日のように先生方にご指導いただきました。その結果、試験の際には具体的にどういうことを学ぶために志望したかを伝えることができました。それだけでなく、準備を通して多くの知識を身に付けることができ、自信を持つことができました。多くのことを教えて下さった本校の先生方には、感謝しかありません。

大学では地域農業論や農山漁村振興を研究しているゼミに参加し、現場実習での経験を通して学びを深めていきたいと考えています。そして大学での経験を生かし卒業後は就職し、多くの経験を積みたいです。その中で視野と人脈を広げ、力をつけ、「持続可能な地域づくり」を実現できるリーダーとして、地域農業振興に全力で取り組みたいです。

総合型選抜での受験は、自分が大学で何を学びたいのか、将来どのような道に進みたいのかが明確にある場合に、可能性を広げてくれる入試形態だと実感しました。合格のためには、とにかく「準備あるのみ」です。最初から諦めずに、果敢に挑戦してほしいです。

狭山ヶ丘通信 204 号 生徒氏名誤記載のお詫び　狭山ヶ丘通信204号3面に掲載いたしました、「中3修学旅行　東海三県」の執筆生徒につきまして、「[redacted]」と掲載いたしましたが、「[redacted]（[redacted]出身）」の誤りでした。訂正し、謹んでお詫び申し上げます。